

町議の報酬

白老町議会は、10月の町議会議員選挙を前にして、報酬の引き上げで揺れています。

白老町議会は、平成20年に、議会改革の一貫として、議員数の削減に併せ、全国でも初めてとなる「通年議会」を導入しました。このため、町議の議会活動は200日を超え、この他にも町の行事対応などがあり、他の仕事との掛け持ちは難しいと思われます。

町議会議員の定数は現在15で、その構成を見ると、平均年齢は62歳、最も若い方で50歳、しかも約半数の議員は年金暮らしという状況です。報酬は、20万7千円で、手取り16万円前後では生活できないとの声もあるようです。

こうした中、飴谷白老町長は1月、若い方や女性など多様な人材が町政に参加しやすくなるよう、議員報酬の約9万円引き上げを町報酬審議会に諮問しました。報酬審議会では、6月上旬に、町長の考えに沿った答申をしていますが、その際、町民の目線に立った議会改革が必要などの注文を付けています。

確かに、地方議会では議員のなり手がいなくなっていることは事実のようで、今年の統一地方選挙では、34の町村議会議員選挙が無投票でした。

首長と議会は車の両輪といわれているように、地方自治、住民自治を支える大きな柱であるはずの地方議会が、住民の代表である議員のなり手が不足し、議会活動が停滞していくことは、極めて深刻な状況だと思います。

何故、地方議会では議員のなり手が減ってきたのでしょうか。

飴谷白老町長がお考えのように、報酬が低いということも要因の一つだと思います。特に、白老町のように、通年議会で議員が本業にならざるを得ないと考えた場合には、報酬20万円は確かに低いといえます。

それでは、報酬を9万円引き上げたとしたら、議員になりたい人は増えるでしょうか。私は、必ずしもそうはならないと思います。何故なら、今の仕事を

なげうってまでやりたいと思わせる程の魅力が、町議という仕事にあるとは思えません。報酬の額よりも、こちらの方が大きな問題ではないでしょうか。

また、町民の議会への参加を促すというのであれば、通年議会以外にも、土日議会とか夜間議会とか様々な工夫をすべきです。

そもそも町議のみならず、議員の数が多すぎる、もっと減らせという声が、途切れることなく随所に上がっているのはどうしてでしょう。それは、現状の議会や議員の活動なら、議員の数はもっと少なくても良いと考えている人が多いということに外なりません。

「議員の数を減らせば報酬を増やせる」という意見もあります。しかし、考えなければならないことは、議会はどうあるべきということ。議員の数と報酬の額は、関係はしていますが、本来は切り離れた上で、あるべき姿について議論すべきです。

飴谷白老町長のお考えは、一つの見識です。町議の皆さん方も、報酬の引き上げが議員活動に見合ったものだとお考えなら、町議選後に問題を先送りするような姑息なことを考えず、堂々と主張して町民の信を問うていただきたいと思います。

そうしてこそ、町民の代表の名に相応しいといえましょう。

(塾頭 吉田 洋一)